

## 令和7年度 学校経営方針

### 1 令和7年度の改善（学校評価による現状と課題を踏まえて）

○改善の方向	6年度の重点目標について保護者からの認知度が低下している。学校からのわかりやすい説明をしていく必要がある。 学習については他者の考えを肯定的に受け止めながら学び合うことやICTの活用について、進めることができた。保護者へも理解を進めたい。児童は学校の決まりを守る意識は高まってきた。今後決まりの意味理解まで進めたい。 学校行事については児童、保護者の満足度が高いが、準備に充てる時間も含め、児童の負担を軽減しつつ主体性をさらに生かす行事のあり方について改善が必要である。 キャリア教育については児童一人一人が自身の将来について考える学びを継続していく必要がある。そのためにも地域資源を生かした体験など様々な人と関わる学習をさらに充実させていきたい。 地域連携については様々な取り組みを進めているが、関係者組織についての認知が不十分であることから、次年度以降は活動内容など周知に努めたい。 学校の施設の安心感は高まっているが、災害対応について地域との連携を進めたい。 教員は校内での研修について成果を上げてきたが、来年度は管理職と職員の信頼関係を元にさらに充実させていきたい。児童、保護者信頼に応えられるよう教員の負担過重にならないようにしながらさらに相談体制、指導体制の向上を図りたい。

### 2 重点目標

- A 他者に興味をもって関わり、互いを認め合い尊重し合う態度を養い、他者の考えを肯定的に受け止めながら成長する経験の充実を図る。
- B 「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて、地域の教育資源を活用し、協働的な教科・教科外活動及び振り返りや対話による自己理解の深化を図る。
- C 学ぶ内容や児童の実態に応じたICT活用を推進するとともに、デジタルリテラシーとデジタルシチズンシップを養う。
- D 教員が人間性や創造性を高めつつ、児童一人一人の成長を喜び、働きがいを感じながら児童と向き合えるよう、働き方改革を進める。

### 3 主な方策

- A 学級活動、縦割り活動、クラブ活動、学校行事などで学校内外の多様な人材と協働して学ぶ機会を創る。一人一人に応じた支援のために、特別支援教育、いじめ対策、教育相談などの職員組織を設置する。多様な人を尊重して関わる力を高めるために地域の幼稚園、保育園、中学校などと関わる機会を創る。せたがや探究的な学びの探究プロセスにおける振り返りを重視し、主体的な課題解決を実現する。地域の施設や人材を積極的に学習に活用し、各学年児童が行動して試す機会を創る。
- B 考えや表現したこと学びの記録することや、ドリル学習にタブレットを継続的に活用する。ICTを安全に効果的に活用できるようにするために、ネットの活用方法について学ぶ機会を創る。
- C 教科担任制、モジュール授業、支援人材の活用を進め、児童の状況を組織的に把握し指導に生かす。個人面談、キャリアパスポート、通知表などを連携させ効果的で的確な評価を児童、保護者に伝える

### 4 教科「日本語」と総合的な学習の時間の活用

- ・教科「日本語」及び総合的な学習の時間の年間計画を作成し実施する。
- ・校内研究の領域を生活科、総合的な学習の時間とし、児童一人一人が課題を追求する学びをすすめる。
- ・生活科、総合的な学習の時間と他の教科領域の関連を意識し、各学年の成果を学習発表会で発表する。

### 5 その他

- ・教育相談、特別支援教育を推進し、一人一人の児童についての理解と支援についての理解を深め、いじめ防止、不登校児童支援を進める。
- ・服務事故防止のため、毎月短時間の服務研修を実施する。